



一宮町長
馬淵 昌也

ここで私はなにより大事にしているわけです。

都会では、道で会う人のほとんどが知らない方ですので、あいさつしないことが普通です。私は、都会へいっても、ついあいさつしたくなってしまいますが、あいさつをすれば、相手に変な顔をされるだけです。都会では、やっぱりしない方がよいのですよ。

しかし、それは一宮町では、さびしいことです。小さな町で、みんなで寄り添って暮らしているのですから、やはりあいさつは必要です。警察の方に伺ったところ、町をうろつく空き巣狙いにとって、住民からあいさつされるのが、一番いやなことなのだそうです。あいさつは、防犯上にも意味もあることになりました。

一方で、最近は、おかしな人との接触を避けるために、知らない人とはあいさつをしない、という考え方もあるようです。子供さんがたに、そうしたご指導をされている保護者の方もおられると伺っています。そこは、身を守るためですので、もちろん全く構いません。しかし、差し支えない範囲では、是非ともあいさつを交し合う習慣を大事にしていっていただきたいと思いません。

先般、本町の「社会を明るくする運動」で、一宮小の寺田莉乃さんが、あいさつの重要性について素敵な文章を書いて下さり、県の賞を受賞されました。すばらしいことです。おめでとうございました。

私も、日々、あいさつを大事にするように心がけています。朝、徒歩で出勤することが多いのですが、道でお目にかかった方々には、必ず「おはようございます」「いつつらうっしょい、お気をつけてお出かけください」などと、お声をかけるようにしています。また、役場についたら、各課をまわって、職員のみなさんにも朝のあいさつをしています。特に、子供さんがたには、大声で「おはようー」と呼びかけ、午後であれば、「おかえりなさいー」気をつけて帰ってねー」とあいさつします。子供さんがたも、決まって大きな声で「おはようございますー」「ありがとうございますー」などと、返してくれます。

あいさつを交わすと、お互いの心が通じて、温かくなります。社会というのは、みんなで作るものですから、心を通じさせることは、最も必要なことだと思います。その意味で、あいさつは人としての基本というべきです。そ